

日本学術会議緊急集会「今、われわれにできることは何か？」（3月18日（金）  
15-17時）竹内個人メモ

会員・連携会員 80+、一般 60+、報道関係 40+、計 190+が参集しました。  
防災関係者は、気がついた人はほとんどいませんでした。  
原子力が中心で、津波に関する議論はあまりありませんでした。  
はじめの1時間は原子力発電所と、放射能の人体影響の報告と質疑でした。  
後半1時間が討論で、30人ほど(?)が発言しました。  
最後に、日本学術会議事務局長のひろわたり氏が提案し、金沢会長が賛成し、  
全員が同意して、「東北・関東大震災対策委員会」を立ち上げることになりました。

発言には以下のようなものがありました。

- ・科学情報に関する掲示板を開設し、正確な情報を共有すべき。3号機の対策についての沢山の提案があった。
- ・広域対口支援を実施すべき。（「対口支援」は四川地震で実施された、地方・地方一対一での支援体制。  
特定の省・特別市を特定の県・市担当で指定し支援するもので、例えば上海市は都江堰市を支援した。）
- ・早くグランドデザインを作る。
- ・海外からの支援オファーと協力すべき。学会声明などでリードを。それには今後どうするか哲学が必要。
- ・そのための原理となる、防災哲学、開発哲学を早急にまとめるべき。
- ・国は原子力発電を民間責任で開発することに決めたが、事故対応を民間だけではできないのは明白。
- ・原子力委員会には、広い分野から委員が入るべき。
- ・見舞い金には税金控除があるが、見舞い品にも控除を広げるべき。再建費にも。
- ・今できることと言っても今とはいつのことか（学生からの発言）。あすから三連休になる。
- ・Time tableをいれたAction planを。
- ・想定外という言葉は注意して使わなくてはいけない。どこまで想定していたのか。本当に想定外か。